

令和5年度各地域包括支援センターの事業評価について

1 趣旨

市内5か所の地域包括支援センター（以下「センター」という。）それぞれが置かれている現状を「組織・運営体制等」「個別業務（総合相談支援業務、権利擁護業務、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務、地域ケア会議、介護予防ケアマネジメント・介護予防支援）」「事業間連携」の3つの側面から分析し、比較することで個々のストロングポイントとウイークポイントを可視化し、客観的かつ多様な視点からの評価を可能にすることによって、センターの適切な機能強化や負担軽減を図る。

2 事業評価の観点

センターが実施する介護予防ケアマネジメントや包括的支援事業等による地域住民への援助は、保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することにつながり、今後の地域包括ケアシステムの構築を推進していく上で、その機能強化は重要な課題である。

他方、センターの業務負担の過大についても指摘があるが、センターによって状況や事情が異なっているため、個々の業務を定期的に把握・評価し、それに基づく中長期的な視点に立って適切な対応を図っていく必要がある。

3 評価の方法

国が示す様式を用いて各センターが自己評価したものを地域包括ケア推進課でとりまとめリーダーチャート化し、全国平均及び市内の各センターを比較するとともに、主な考察を書き加えたものを評価する（評価項目は別紙参照）。なお、国の設問に対する回答は「できている」「できていない」の二択であるため、実施している場合は「できている」に該当している。

4 評価対象期間

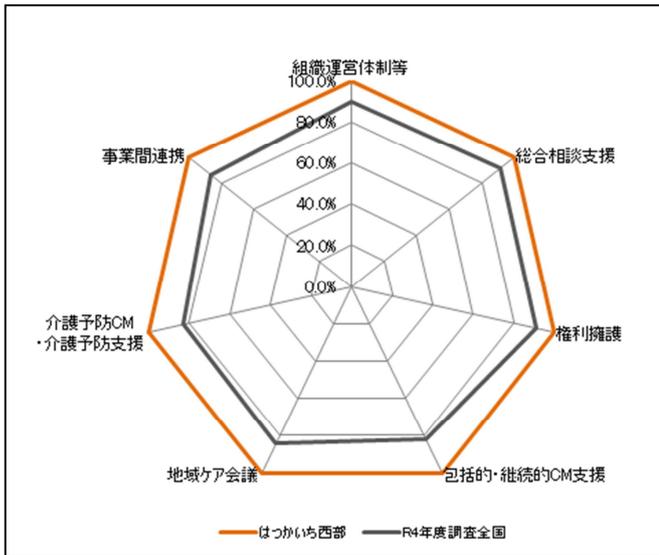
令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日（令和5年度）

5 備考

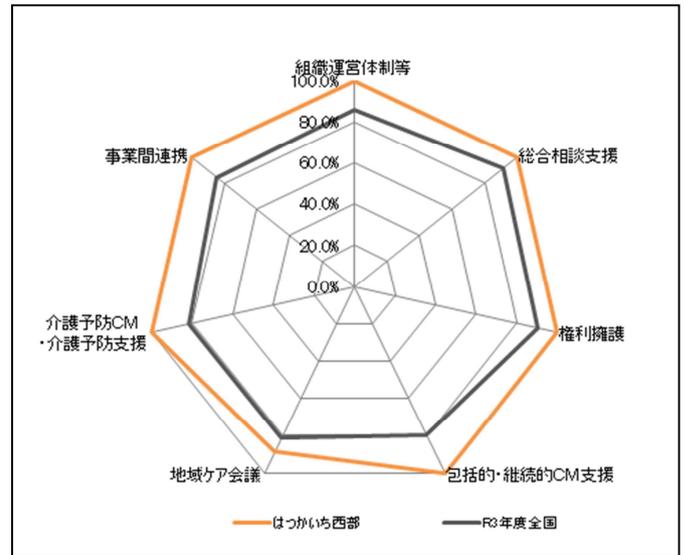
現在の評価指標については、年を追うごとに達成率が高い項目が増加してきた等の理由により、令和6年度評価から国が新たな指標を導入し、Web上システムによる評価に変更されることが予定されている。

地域包括支援センターはつかいち西部

< R 5 評価 >



< R 4 評価 >



1 レーダーチャートの特徴、前回との比較

- 直営センターについてはすべての基準について達成できている。
- 前回と比較して、「地域ケア会議」に類する「センター主催の地域ケア会議において、地域課題に関して検討しているか」という設問について改善されたため、当該基準が前回は上回った。

2 当地域包括支援センターのストロングポイント (S) とウイークポイント (W)

- S** 広島総合病院に隣接し、施設内に在宅医療・介護連携相談支援室、五師士会事務局、調剤薬局が入っているため、事業連携が速やかに図れている。
- S** 圏域内の医療機関から気になる高齢者の相談を受けやすく、連携して対応できている。
- W** チラシやポスター、出前講座等でセンターの周知をしているが、市民に浸透していない。

3 現状で取組が進んでいない業務とその要因

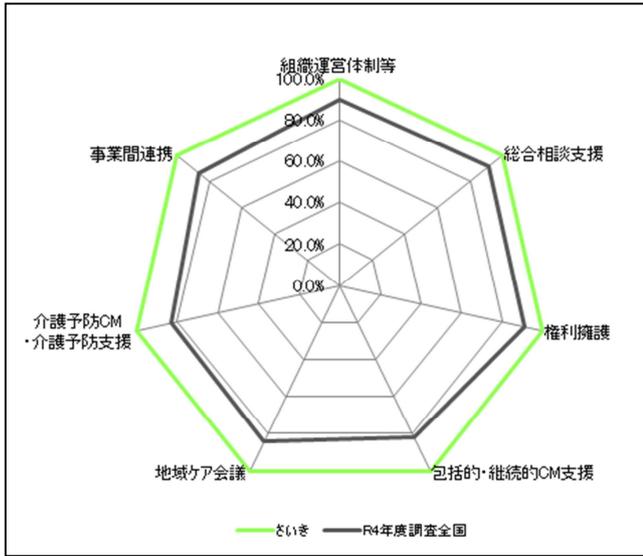
- 自立支援に視点を置いたケアマネジメントの強化に取り組めていない。
(要因) 廿日市地域の他圏域と比較して、後期高齢者割合や認定率が高いため、認知症高齢者の増加も予測され、自立した生活を営む事が困難な状況が多い。

4 1～3を踏まえた機能強化及び負担軽減の視点に基づく今後の取組

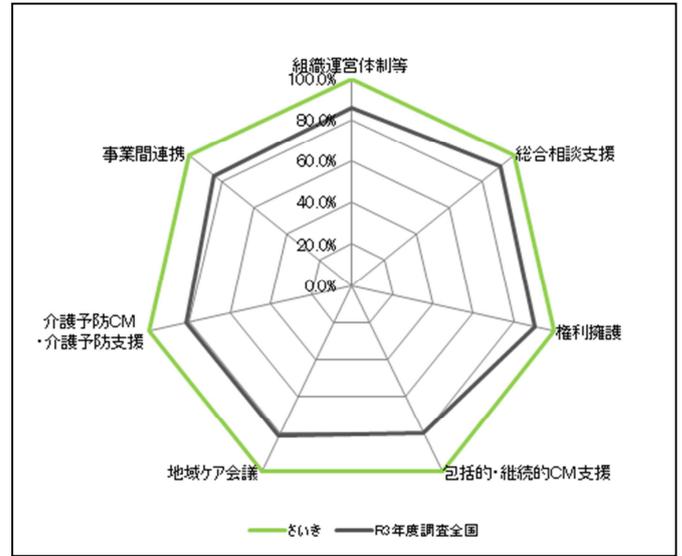
- 包括だよりの定期発行やチラシ配布に継続して取り組み、高齢者の相談窓口としての周知を図る。
- 地域ケア会議で自立支援に向けたケアマネジメントや地域課題について共有し、検討できるよう企画・実施する。
- ケースの終結の整理や事務処理等の効率化を図る。

地域包括支援センターさいき

< R 5 評価 >



< R 4 評価 >



1 レーダーチャートの特徴、前回との比較

- 直営センターについてはすべての基準について達成できており、さいきについては前回と同値である。

2 当地域包括支援センターのストロングポイント（**S**）とウイークポイント（**W**）

- S** 佐伯支所内にあることで各担当部署との情報共有が円滑で、対象者の実態把握等をしやすい。
- S** 佐伯支所市民福祉系の保健師や栄養士とも連携、協力がしやすく、市民福祉系が行う健康相談等にセンター職員も同行し、センターの周知や、困り事に対する早期対応・支援することができている。
- S** 吉和地域はすぐにかけることは難しいが、吉和支所（ランチよしわ）の保健師や社会福祉協議会、吉和診療所が連携して対応することができている。
- W** 中山間地域で社会資源が沿岸部に比べて少なく、人材不足も深刻なため、サービス調整にかなり時間を要している。（特に吉和地域）。

3 現状で取組が進んでいない業務とその要因

- 地域ケア会議で抽出した課題について関係部署にも情報共有するようにしているが、政策や取組等につながるまでの十分な動きはできていない。

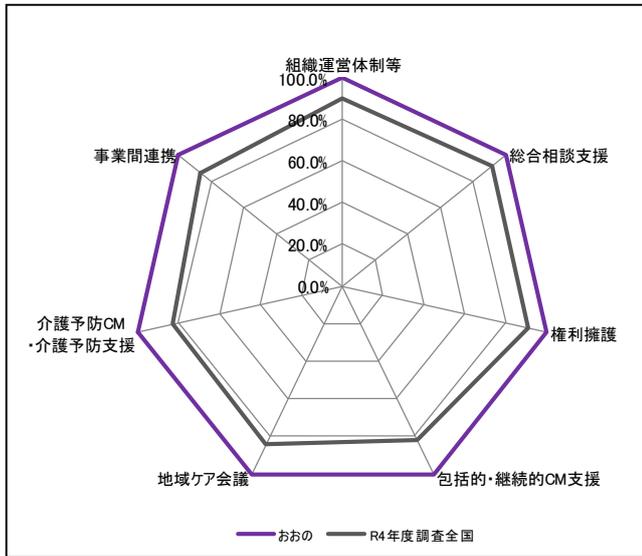
（要因）圏内に居宅介護支援事業所も少ないため、ケアプラン作成業務をなかなか委託できないうえ、センターの業務量も過大であることや、生活支援体制整備事業との連携が十分にできていないため。

4 1～3を踏まえた機能強化及び負担軽減の視点に基づく今後の取組

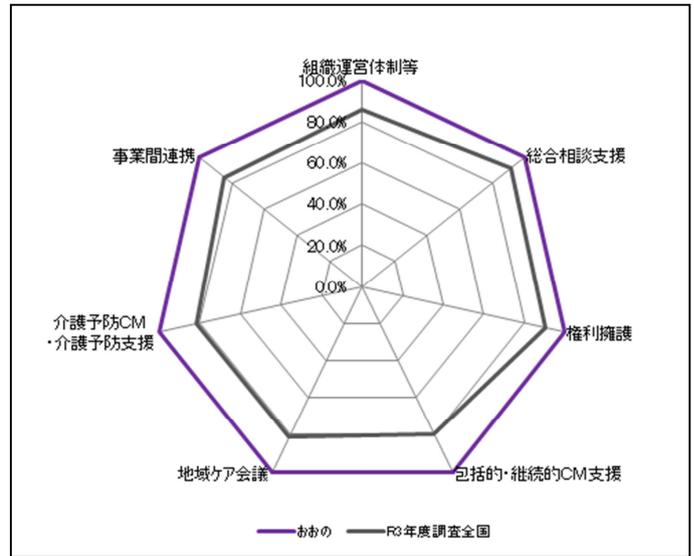
- 地域ケア会議と生活支援体制整備事業を連動させ、行政、専門職、地域住民も巻き込みながら、課題を解決していく。
- 社会資源が十分でないことから、人材発掘の取り組みを検討していく。

地域包括支援センターおおの

< R 5 評価 >



< R 4 評価 >



1 レーダーチャートの特徴、前回との比較

- ▶ 直営センターについてはすべての基準について達成できており、おおのについても前回と同値である。

2 当地域包括支援センターのストロングポイント (S) とウィークポイント (W)

- S** 看護師、社会福祉士や精神保健福祉士など複数資格を所持している職員が多く、複合化した課題について多角的な視点から議論し、支援している。
- S** 大野支所内にあり、市関係部署や社会福祉協議会などとの連携がとりやすい。
- W** 対象圏域 (大野・宮島) が広く、特に宮島は、地理的にもすぐにかかけつけることが難しいが、緊急時には、ブランチに応援をお願いしている。

3 現状で取組が進んでいない業務とその要因

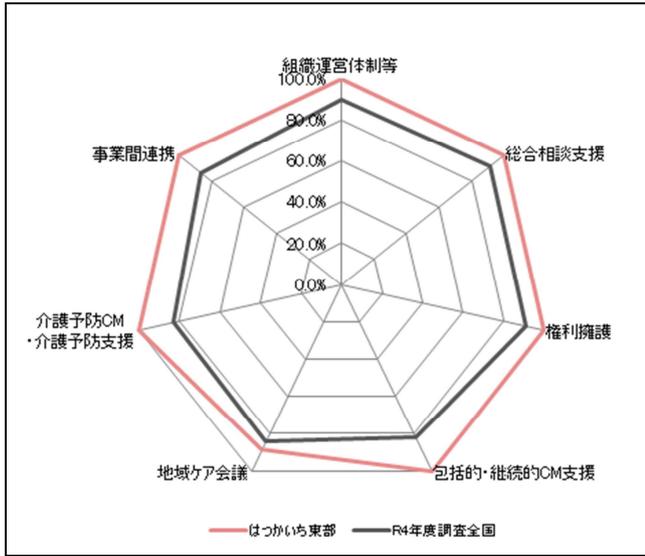
- ▶ 他圏域と比較して高齢者人口が1番多く、認知症に関する相談も増えているため、個別対応や実態把握を優先するあまり、認知症に関する商業施設等への出前相談が実施できていない。

4 1～3を踏まえた機能強化及び負担軽減の視点に基づく今後の取組

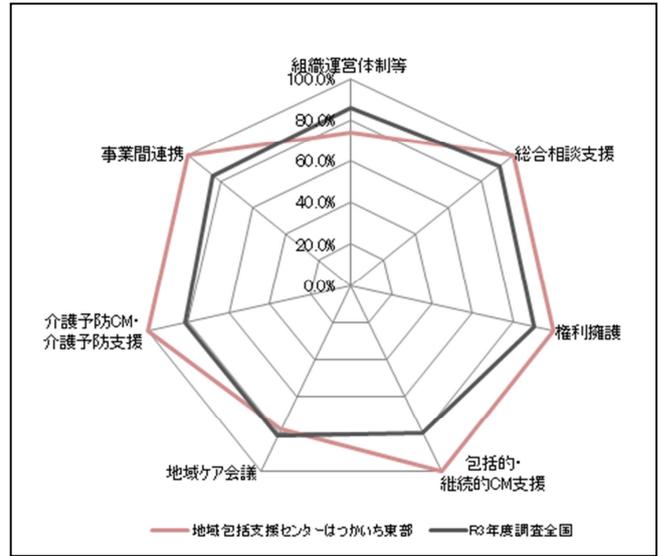
- ▶ 複合的な課題への支援に市、社会福祉協議会、多職種、地域住民による地域ケア会議を充実させ、課題を解決していく。
- ▶ 認知症の家族会や社会福祉協議会と協力し、認知症予防や理解促進のステップアップ講座等を企画し、啓発や出前相談をしていく。

地域包括支援センターはつかいち東部

< R 5 評価 >



< R 4 評価 >



1 レーダーチャートの特徴、前回との比較

- ▶ 委託センターについては、「地域ケア会議」における「センター主催の地域ケア会議において、地域課題に関して検討しているか。」という設問については、前回も「できていない」という評価だったので意識的に取り組んだものの、改善には至らなかった。
- ▶ 前回と比較し、「組織運営体制等」における「仕事を離れての研修 (off-JT) の実施」や「夜間・早朝の窓口を設置し、周知しているか。」、「地域ケア会議」における「多職種連携による自立支援・重度化防止等に資する観点からの個別事例を検討し、対応策を講じているか。」について改善が図られ、評価が向上した。

2 当地域包括支援センターのストロングポイント (S) とウイークポイント (W)

- S** 山崎本社 みんなのあいプラザ内に位置しているため市民になじみがあり、来訪しやすいうえ、各担当部署や社会福祉協議会等との連携、協力体制がスムーズで、タイムリーな対応が取りやすい。
- S** 居宅介護支援事業所や民生委員が当地域包括支援センター業務に協力的である。
- W** 立地条件が裏目に作用し、担当圏域外やセンター業務外の相談を受けることが多い。

3 現状で取組が進んでいない業務とその要因

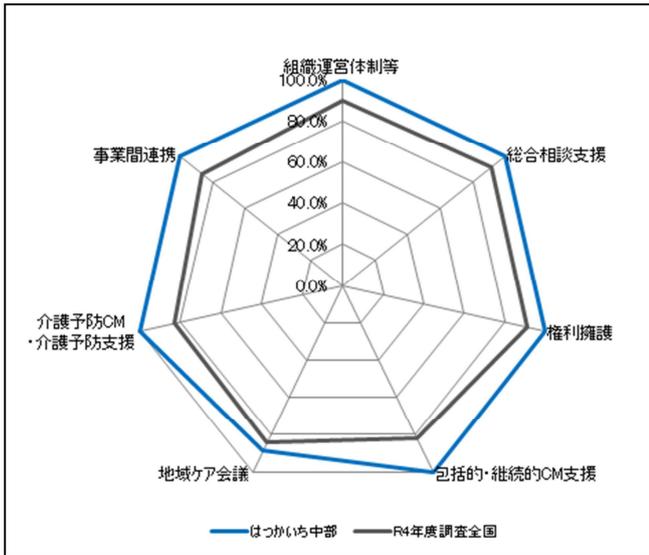
- ▶ 1月までの間、職員の定数が確保できなかったため、介護予防ケアマネジメント業務に追われ、地域の活動に参加する時間の確保が難しかった。
- ▶ 地域ケア会議等開催をしても地域課題抽出まで至らないという問題がある。

4 1～3を踏まえた機能強化及び負担軽減の視点に基づく今後の取組

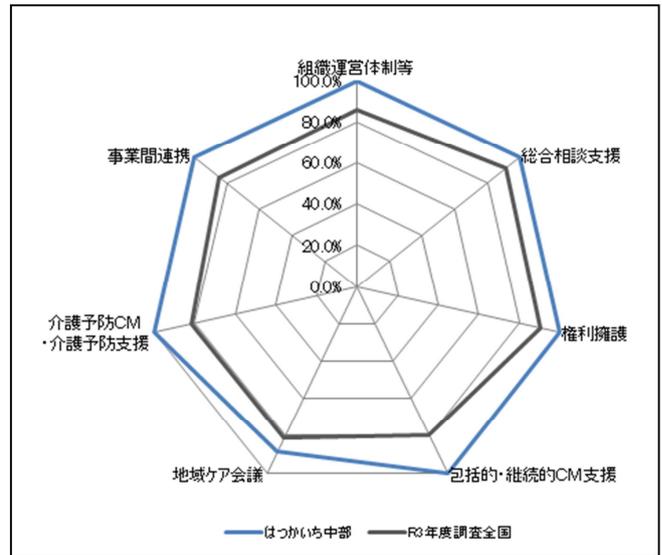
- ▶ 地域での活動に参加できるよう各職員の担当件数配分を見直し、ケアマネジメント業務の負担の軽減を図る。
- ▶ 権利擁護や認知症等の記事を掲載したセンター便りを定期的に発行し、医療機関やサロン、100歳体操の場で配布する等、周知活動を継続する。
- ▶ 地域ケア会議の場を生かし、地域の情報発信、情報収集を行う。

地域包括支援センターはつかいち中部

< R 5 評価 >



< R 4 評価 >



1 レーダーチャートの特徴、前回との比較

- ▶ 委託センターについては、「地域ケア会議」における「センター主催の地域ケア会議において、地域課題に関して検討しているか。」という設問については、前回は「できていない」という評価だったので意識的に取り組んだものの、改善には至らなかった。

2 当地域包括支援センターのストロングポイント（**S**）とウイークポイント（**W**）

- S** 事業所が宮内にあることで地域との距離が近くなり、介護保険等の内容に関わらず、地域の人がちょっと立ち寄って道を尋ねたり、近くで起きた事故や転倒等のお知らせも入りやすい環境にある。
- S** 認知症の相談については、同じ法人内の認知症初期集中支援チームとの連携がしやすい。
- S** 土曜日は通常休業であるが、数名出勤しているため、緊急やその他の対応も可能である。
- W** 一部地域では、相談するところが遠くなったと言われることがある。
- W** 庁舎と離れたところにあることや周知が浸透していないことから、当圏域の対象者があいプラザに相談に行くケースがあり、相談者や地域包括支援センターはつかいち東部に手間を取らせてしまうことがある。

3 現状で取組が進んでいない業務とその要因

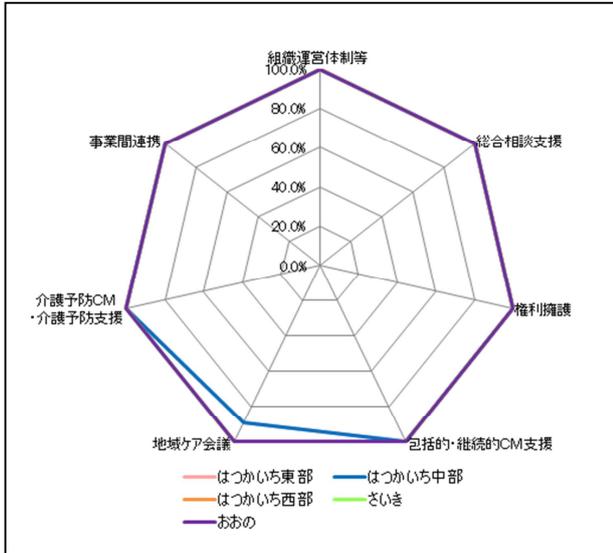
- ▶ 短期集中サービスへの取組が積極的に実施できていない。
 (要因) 短期間でサービスを終わられる人の見極めの難しさや導入時の手間がかかることが考えられる。

4 1～3を踏まえた機能強化及び負担軽減の視点に基づく今後の取組

- ▶ センターの周知に引き続き努め、地域とのかかわりを進めていくことで地域の困りごとや課題に取り組んでいく。
- ▶ 短期集中サービスについて、事業所内でも取り組みを強化していく。

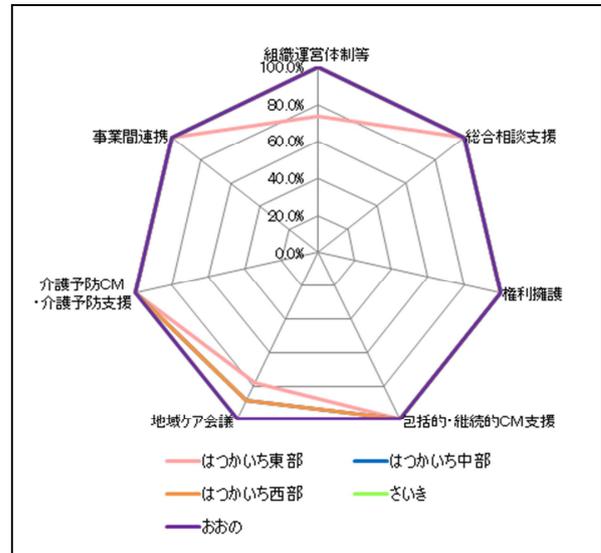
全地域包括支援センター

< R 5 評価 >



※ 直営と委託がそれぞれ同値

< R 4 評価 >



※ はつかいち中部と西部、さいきとおおのはそれぞれ同値

1 レーダーチャートの特徴、前回との比較

- ▶ 前回調査と比較し、「できていない」項目についてもおおむね改善が図られており、全国の傾向と同じく達成している基準が多い。
- ▶ 地域ケア会議における地域課題の検討については、市行政担当課との情報連携のしやすさという面から、直営センターの優位さが否めない。

2 本市センターのストロングポイント（**S**）とウイークポイント（**W**）

- S** 直営、委託それぞれの運営方式によるセンターを設置しており、直営の行政内部との連携のしやすさや、委託の法人内部での専門職同士による連携の多彩さや知識やノウハウの蓄積のしやすさ等、それぞれの優位性を発揮し、さらに相互が連携することでサービスの質の向上及びバランスが保たれる体制がとれている。
- S** 関係各課も交えた毎月の圏域別内部会議や民児協定例会等において地域情報を共有する機会があることや、地域の会議等に市地域福祉や地域づくりに関係する部署、社会福祉協議会等と出席することで地域の実情を把握できる機会が多い。
- W** 業務負担の増加については本市も例外ではなく、機能強化や人材育成等に関する戦略的かつ長中期計画的な取組が実行できる体制が整っていない。

3 現状で取組が進んでいない業務とその要因

- ▶ 全センターの機能（体制）強化、業務改善、負担軽減のための業務効果が薄い。
（要因）全センターの後方支援を担う基幹機能や、評価の還元が十分に発揮される体制が整っていない。

4 1～3を踏まえた機能強化及び負担軽減の視点に基づく今後の取組

- ▶ 本市センターにおいても全国と同様に、複合的かつ複雑的な事例への対応力強化や日常的サービスの資質向上、業務の負担軽減をどう戦略的かつ計画的に図っていくかが喫緊の課題であり、これらの課題に対応する手法の1つとして基幹型センターの設置を検討していく。